

「流域計画・流域管理課題分野」(平成27年度採択)

事後評価結果

研究テーマ名	研究代表者	評価
将来の人口変動を踏まえた治水安全度バランスの適正化方策に関する研究（研究期間：H27年～H28年）	いであ株式会社 荒木 智三	B
<p>＜研究概要＞</p> <p>本研究は、中部地方整備局管内の1級水系の河川を対象に、想定最大外力までの浸水被害を踏まえた治水安全度のバランスについて、氾濫ブロック毎に浸水被害額の被害期待値等を算出し、これを指標として評価する手法を研究した。さらに、庄内川をモデルとして治水安全度バランスの適正化を図るため、計画治水安全度の向上や堤防強化等の河川対策と人口減少を踏まえた氾濫区域内の土地利用施策との連携についてモデル的検討を行った。研究は、平成27年度と平成28年度に行った。</p>		
<p>＜事後評価コメント＞</p> <p>氾濫ブロックごとの治水安全度バランスの評価手法及びバランスの適正化方策の検討について、定量的に分析ができていることから、研究目的は概ね達成され、研究成果があった。しかしながら、人口減少の影響について、産業構造や地域特性などを考慮した検証が必要であったと考えられる。</p> <p>今後は、人口動態の考慮や広域的な視点での治水安全度バランスの検討など更なる研究の進展が期待される。</p>		

※評価基準

- A: 研究目的は達成され、十分な研究成果があった
- B: 研究目的は概ね達成され、研究成果があった
- C: 一定の研究成果があった
- D: 研究成果があったとは言い難い